

## ◆ 2019年度活動報告シート ◆

団体名：NPO 法人 エンハンスネイチャー荒川・江川

22A-44

代表者：理事長 小川早枝子

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

荒川太郎右衛門自然再生地、三つ叉沼ビオトープ、そして江川のサクラソウトラスト地などの荒川中流域エコロジカルネットワークの自然の質を高めるための希少植物群落再生に必要な湿性植物の増殖を江川サクラソウトラスト地で行っている。この荒川の自然を代表とする希少植物群落とはノウルシ、サクラソウ、チョウジソウ、ノハナショウブ、コオニユリなどで構成される植物群落である。この群落を再生する場所は元々の荒川の土壌が残されていることが必須である。荒川太郎右衛門自然再生地に適地が見つかり来年度から荒川希少植物群落再生に取り組むはこびとなった。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

この荒川中流域エコロジカルネットワークの再生のために希少植物の増殖にはトラスト地の自然環境を維持し続けることが最も重要な事柄である。夏から秋には外来植物の駆除、秋に見渡す限りのヨシ原刈り、刈ったヨシの運び出しや野焼き等の作業を適時且つ適切に行う。最も大変な作業のヨシの運び出しは今年度も上尾市環境推進協議会や埼玉大学の協力で行った。参加者は計約 100 名。また季節ごとに自然再生に必要な種子を採取して苗箱に播き希少植物のポット苗を作った。

### 3. 活動の成果

難しいコオニユリとノハナショウブの苗を 100 カップ以上つくった。移植できる苗ができるまでに 3 年以上かかったが、この様にして来年度から荒川太郎右衛門自然再生地で行う希少植物群落再生に取り組む準備が整った。

### 4. 今後に残された課題

荒川太郎右衛門につくられる希少種自然再生地の管理方法は未定である。トラスト地では 30 年に渡って希少種群落の管理を確実に行ってきたが、同様の作業を行うのは困難なことがわかり、再生事業のなかで管理体制を試行錯誤することとなった。



江川サクラソウトラスト地の自然は  
荒川中流域の自然再生に欠かせない財産



毎年 12 月に行うヨシの運び出し作業  
埼玉大学の学生の応援で無事終了